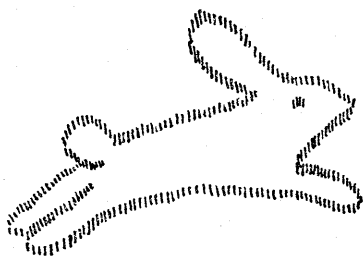


いたいのいたいのとんでいけ (その四)

「大事なものはお友達なの？

僕知らなかった」



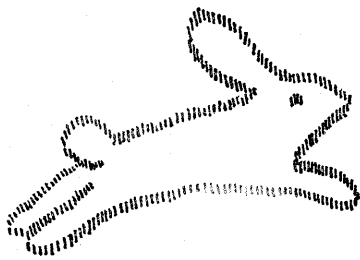
蕪木 寿江

九月二十日

運動会の予行練習なので、役員のお母様方が大勢いらっしやった。行事の時はK夫は休んだ方がいいことを言うべきだった——と想っていると走ってきた。そしてすぐ紅白玉入れの玉を撒いて箱の中に入った。周りの人が困っている様子には無論気がつかないが、皆に迷惑をかけている状態の時は、本人にとっても決して気分がいいことではないので、「お部屋に行きましょう」と誘うと「どうしてもいけないの？」と聞き返すので「皆が練習ができないのよ」と言う可悲しい顔をして泣いた。そして部屋の隅に閉じこもって一人で郵便局屋さんをしていた。(すまないことを言ってしまった、という思いでつらかった)「玉入れの番がきたわよ」言っつて誘うと、すぐ部屋からできて喜んで投げっていた。籠の中に入れるのではなくて、四方八方に投げていた。

九月二十七日

積木にボール紙で「POST・OFFICE」と書いて張っ



て郵便局の続きをしていた。入口に「工事中、ここから入らないで下さい」と書いてあった。「何か、小包みはありませんか？」と聞いていた。友達がお誕生会でホールに言ってしまうと一人で粘土で小判をつくっていた。

「お弁当は郵便局で食べたい」と言うので支度をしてあげたが食べなかった。郵便局の積木の隙間が気になり、「どうしてここが開くの？」と涙をだして悔しがった。

すぐに直してあげると泣きやんだ。年少さんを抱っこしている。「僕も抱っこして——」と言うので「二人はできないわ」と言うと「じゃんけんしよう」と言った。K夫が勝ったので抱っこすると頬っぺをつけて喜んだ。

十月一日

砂場で高速道路をつくっていると、マイクで「十月のお誕生会の写真を撮ります」と流れてきた。K夫はすぐに「お誕生会のお菓子は？」と聞いた。食べる物に興味を持ったと言うことは素晴らしいと思っただけで、お母さんに話したが、あまり感動しなかった。部屋の中でも友達

が積木で高速道路をつくっていたら、さっと来て蹴とばしてこわしてしまった。「又、つくればいいよ」と言っても咎めなかった。K夫はダンボールになんだかわからないものをマジックで描いていた。「おんぶして」と言うのでおぶっているとその足で傍を通る友達を蹴とばして笑っている。「お友達が痛い、痛いって言っているわよ」と言うと、「あなたは怒るからきらいです」と背中に張りついているK夫に言われた。

十月三日

事務所で友達の切手を見つけたが「これいいですか？」と聞いてから貰っていた。友達が兎の餌に持ってきたパンの耳を見つけて袋の中から出して食べていた。パン屋さんのできたてのなので気に入ってかよく食べた。びっくりして見ている友達にも「おいしかったらどうぞ」と言っすすめていた。K夫は口に五・六本も一緒に入れておいしそうに食べていた。お母さんが迎えに来たが、今日もなかなか帰らなかった。「兎さんに郵便物を届け

ましよう」とお母さんが言うのと帰って行った。

十月五日

外で御神輿づくりをしていると、九時十五分に登園してから十一時まで花神輿のポンド係になってお花をつける役をやった。友達が「ポンド屋さん、お願いします」と言うと真剣な顔であきずにやっていた。みるみるきれいな御神輿ができてきた。乾いてから「先頭がいい」と言っつかつぐ。

十月九日

玉子ケースを見つけて「これ使わないの？」と聞く。「どうぞ」と言うと焼き卵屋さんになって屋台のように動かして「お醤油をつけて食べなさい」と言って繰り返して遊ぶ。郵便局でなく食べ物屋さんになったのは初めて嬉しい。先生が遊びの中にもちよつと声をかけると長い間続けて遊べた。先生が御神輿で外に行ってしまうと、また事務所に行つて、ガラガラとどこでも開けている。

「お散歩に行く？」と声をかけるとすぐに「行く」と言  
って先生と手をつないで歩いた。近くの公園に着くと砂  
場に行ったり、お滑りをしたりした。お弁当は食べなか  
った。食べ終わった友達の鞆が木に吊してあるのを全部放  
り投げた。木の根もとに置いてある鞆は集めて山のよう  
に積んでしまった。「やらないで」と注意したのがいけ  
なかったのか「帰る」と言うので送って行くと、「この道  
の木がこわい」と言っただけで垂れ下がっている枝をいやがっ  
て泣き叫ぶので、K夫の気に入った道を通って行った。

十月十二日

NHKが取材に見える（3チャンネル、ことばの治療  
教室）。皆が楽しそうにままごとをしていたのでK夫も  
一緒に遊べるかな、と思っていたのに、新しい屏風があ  
ったらそれを持って馳りまわった。新しいものは落ちつ  
かないのだな、と思った。（今日の録画取りの為につく  
り直したのに——）M先生が「汽車のようね」と言うた  
部屋から廊下から行ったり来たり何回も馳りまわってい

た。友達が人形芝居の舞台をつくってやっているのに人  
形を取りあげて放ったり、箱や、ざるを並べて舞台をか  
くしてしまった。「先生、K夫ちゃんがい」と叫んで  
いたが、気かん坊の弟がまたいたづらをしたと言ったよ  
うな眼で見っていた。「御神輿をかついでサイクリングに  
行くわよ」と言うると「先頭でなきゃいやだよ、お弁当は  
食べないよ」と言っただけで先頭になって歩いた。自転車置場  
に着いたとたん、友達が来ないうちに猛烈な速さでお弁  
当（スナック類）を食べてしまった。食べ終ると「帰り  
たい」と言った。園に着くとすぐに「眠い」と言ってお  
布団に寝てしまった。起きて冷たい水を一合半飲んだ。

十月十五日

砂場でお茶碗に砂を入れ、春・夏・秋・冬と順に少く  
白砂をかけ「おいしい、おいしい、秋がおいしいですね」  
と言って食べるまねを何度もしていた。部屋の中に入っ  
ても「園長駅、砂場町、終点です」と言っただけで「おかし  
や」と言う看板をだして、アイスクリームのふたでつく

った飴を並べていたが、友達がいくと、「今日は定休日です」「今日は、飴を包む日です」と言つて友達を寄せつけないでいるのでお金をつくつて渡すと、にっこりして遊びが続いた。お弁当の時間になつてしまったので、「そおとお引越ししましょう」と言つと、「整理ができない」と言つて泣き叫ぶので「沢山あるといけないのよ、怒ばるといけないのよ」と話すと頬つべたをくつつけてよく聞いていた。抱っこしているとわかつたような顔になるが、降ろすとまた走つて物を集めだす。お弁当は欲しがらず先生がお茶をついでまわつていて「先生ってどうして忙しいの？ お願ひがあるのに——」と悲しそうな表情になつた。「帰りたくない」と言つとお母さんが「新しい切手が貼つてある郵便が来てるわよ」と言つて連れて行つた。幼稚園では切手は忘れてるのに——それ以上楽しいことが増えているのに——と、残念に思いながら後ろ姿を見送つた。

十月十六日

「朝ごはんを食べるようになったんですよ」とお母さんが話された。稲刈りを見に行つたが、先頭でなくても、ともゆきちゃんを手をつないで歩いた。美しい自然の中にいるときのK夫はいつものようにしゃべらず、ゆったりとしていて眼もとがやさしかった。物のない自然の有難さをしみじみと思つた。自然は神か——。救われる思ひである。

十月十七日

九時五分、お母さんに帽子と鞆を渡してすぐに物置から黄色で一番新しい車をだし「あとはどうぞつかつて下さい。いらっしゃい、いらっしゃい、車屋さんです」と言う。石を持って買いに行くと、「これはいけません」と言う。木の葉を持って行こうとしていると、「どうぞ」と言つて赤い車を持って来てくれた。一周して返すと「どうぞ、ごゆっくり十分にお使い下さい」と言つて砂場に行き、友達が掘っているトンネルと一緒にやりだした。十時四十五分迄、黙々として遊んでいた。自分から外で

遊びだしたK夫を見て、職員一同喜ぶ。

十月十八日

帽子と鞆を部屋迄おききてすぐに砂場でお母さんとお山をつくって遊んだ。お母さんが帰ったあとも夢中でお山をつくり、隣にいたK子先生に「あなた誰ですか？先生ですか？」と聞き「一緒につくりましょう」と言つてトンネルを掘った。雨が降ってきたので「中に入りましょう」と言うと言つたので、先生方で一人入れる屋根をつくってあげると、しばらくビニール袋に砂を入れては大きい山にしていた。父親参観日でお父様方がいらつしやると父兄のバッチを「僕が係りですから」と言つて靴箱の傍で「どうぞ、お取り下さい」と言つて渡したり、まだ来ないお父さんの名札を友達に渡して歩いた。「永楽」「名越」等も読める。

十月二十日

「昨日のプリントの残りが欲しい」と言つて例によつて

沢山事務所から持ってきたので、受取つて用水桶の上に置いておくと忘れてるように友達四人と砂場で遊ぶ。

「印刷物は？」と聞くので「お友達が一緒の方が楽しいでしょう」と言つたと「だつて大事なもののなの」と言つた。

「大事なのはお友達なの」と言つたと「お友達なの？僕知らなかった——、お友達なの？僕知らなかった」と繰り返して言った。「お友達、大勢お家に連れて行つてもいいのよ。プリントじゃあお話しないでしょ」と言つたとそれには答えず「お友達が大事なもののなの」と、自分に言い聞かすようにはなく、新しい発見をしたようにまた繰り返して言った。

(神奈川・市ヶ尾幼稚園)